

令和 5年12月26日

南陽市議会議長

殿

無会派

会派会長 伊藤英司



令和5年度 会派先進地等調査の報告について

このことについて、次により先進地等調査を実施いたしましたので、南陽市政務活動費に関する内規第4条の規定により報告いたします。

項目	調査・研修内容
調査期日	令和5年11月6日(月)から8日(水)まで 2泊 3日
調査場所	1、 高知県日高村 2、 徳島県鳴門市
調査目的	1、 特定非営利活動法人 わのわ会の設立経緯や、現在の状況等 2、 地方美術館の運営等
調査概要	1、 「特別非営利活動法人日高わのわ会」は地域のこまりごとを解決したい、その想いからスタートした。全国からの視察は2000件をこえたそうです。会の考え方としては、できる人が、できる時間に、できることをするという事でした。会の仕組みは、村を一つの家族として考える、そして、家族や行政につなぐ循環の仕組みでした。「地域のおかあちゃん食堂」やお弁当の配食サービスなども行ない「日高村フルーツトマト」を使った加工販売事業なども行なっていた。障がい者就労支援では、自分で選ぶことを第一に考え、お金を稼ぐこと、社会に貢献することを、責任感を持って取り組んでもらっていた。このような事業は、新たな雇用を生み出し、地域の特産品に新しい与えていた。 また、地域おこし協力隊と共同経営で、宿泊付スポーツステーション「とまとと」を立ち上げ、宿泊施設のなかった日高村に新しいスポットを作ることで、地域活性はもちろん、移住のきっかけなどにも繋げているようです。 他にも、村民や学生さんと力を合わせて村おこしをしています。「日高メシふえすていばる」の開催や村民の皆さんに

	<p>ももっと楽しんでもらおうと、地域の住民や学生さん達に声をかけ、毎年 30 店舗近い店が出品する地域全体が関わる村の一大イベントに、子供から大人までたくさんの人々が参加するようになり、村おこしや地域活性の成功事例として、よく紹介されるようになった。</p> <p>「日高わのわ会」の視察を通して、多様な可能性に挑戦し、できる事を見つけ行動する事が、成功に繋がると感じた。</p> <p>2、大塚国際美術館は、徳島県鳴門市にあり、大塚製薬グループが創業 75 周年事業として、1998 年に開館した美術館。鳴門海峡に面した砂浜で採取した砂でタイルを作る事業を提案。コンクリートの原料として阪神方面に売られていた徳島の砂に、付加価値を高めて販売することが、大塚や徳島県のためになると考えたそうです。</p> <p>特徴としては、西洋絵画 1000 余りを原寸大に再現した美術館。世界の様々な美術館が体験できる。</p> <p>この他、アートの多様性、国際的なコレクション、構造とデザインなど独自の特徴があった。また、参加者はアートについて学ぶ機会を得る事ができる。地域との関わりとしては、地元のアーティストや文化団体と協力して、地域コミュニティの発展に貢献していた。</p> <p>(別紙参考資料)</p>
その他	